

中国

大同・秦皇島間鉄道建設事業(1)(2)



大石庄駅を通過する石炭を積載した貨車

[借款概要]

承諾額/実行額	18,410百万円 / 15,900百万円
借款契約調印	1988年8月 / 1989年5月
借款契約条件	金利2.5%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1993年8月 / 1994年5月

[事業概要]

大同-秦皇島線（全長652km）のうち、第2期工事区間である大石庄-秦皇島間（242km）に電化単線の新線建設を行うことにより、秦皇島までの増大する石炭輸送需要に対処するもの。

[評価結果]

中国では第7次5ヶ年計画（1986年～1990年）、第8次5ヶ年計画（1991年～1995年）の下で国民経済が発展し、エネルギー需要、特に経済発展の著しい沿岸地方で石炭の需要が増大していた。この旺盛な需要に対応すべく、中国側は、本事業実施中の1990年に中国側予算による複線化の決定を行い、複線化工事を前倒しで実施している。

中国北西部にて産出される石炭の秦皇島までの輸送は全部で3路線ある鉄道輸送が主流であるが、その中で大同-秦皇島線の輸送シェアは1992年の開通以来徐々に伸びており、2000年度の実績では大同-大石庄間が68%、大石庄-秦皇島間で54%となっている。大同-秦皇島線の石炭輸送量は1995年の2,000万トンから2000年には約6,000万トンへと増加しており、他の2路線から大同-秦皇島線への振替が既に行われるなど、本事業対象区間の石炭輸送需要への貢献度は高くなりつつある。

大同-秦皇島線を管理する技術者は経験豊富であり、また一般労働者の技術訓練も実施されていることから、維持管理体制に関しては特段の問題はない。